

令和8(2026)年度
学習院大学大学院

国際文化交流研究科
修士課程

2026-B 日程
論述(大学院入学試験)

注意事項

1. 試験開始の合図があるまでに、この注意をよく読んで間違いのないようにしてください。
2. 試験開始の合図があるまで、問題を開かないでください。また解答用紙は机の上に裏返しにしておいてください。
3. この問題は1枚です。落丁、乱丁、印刷不鮮明などの箇所のある場合は申し出てください。
4. 解答は必ず解答用紙の所定の場所に記入してください。解答用紙は2枚です。
5. 文字ははっきり書いてください。解答の文字が読みにくい場合、及び問題の指示に従っていない場合は点を与えないことがあります。
6. 解答用紙には受験番号を必ず記入してください。
7. 解答用紙の評点欄には何も記入しないでください。

課 程	修士課程	研 究 科	国際文化交流研究科	専 攻	国際文化交流専攻	受験 番号	
試 験 科 目	2026年度 一般入試(B日程)		問題用紙			用紙枚数	1/1枚
						評点	

共通問題1問と選択問題([1]～[4])から1問、計2問について、それぞれの問いに日本語で答えなさい(選択問題は、「入学志願票」で希望したプログラムに応じて選んで下さい)。問題ごとに解答用紙1枚以内で解答しなさい。

2枚の解答用紙の両方に受験番号を記入し、解答した問題を○で囲みなさい。

【共通問題】[全員が解答すること。]

▲150

私たちは異文化と接触し、それを理解・受容しようとする時、言語だけとは限らない様々な困難と向き合うことになる。「文化を翻訳する」ことの困難さについて、あなたの専門分野から具体例を挙げて論じなさい。

【選択問題】[以下の[1]～[4]より1問選択して解答すること。]

[1][「アートマネジメント」プログラム]

2013年6月22日、カンボジアで開催された世界遺産委員会で、日本の「富士山」は世界遺産のうち「文化遺産」に正式登録された。その際、当初は国際記念物遺跡会議が除外すべきとしていた「三保松原」(静岡市清水区)も含まれた。世界遺産としての正式な名称は「富士山:信仰の対象と芸術の源泉」(Fujisan, sacred place and source of artistic inspiration / 仏: Fujisan, lieu sacré et source d’inspiration artistique)である。この「富士山の世界遺産登録」という出来事が現在の日本にもたらしているプラスの面とマイナスの面の双方について、「アートツーリズム」との関係において具体的に指摘し論じなさい。

▲450

[2][「国際協力」プログラム]

国際協力において、現地の文化や価値観と日本的な文化や価値観が対立した場合、どのように対処すべきか、具体例を挙げながら論じなさい。

▲600

[3][「日本学・比較文化」プログラム]

古くから日本社会はしばしば「単一民族国家」と呼ばれるなど、「均質性が高い(homogeneous)」と指摘されることが多かった。この見方に関し、あなた自身の考え方を具体的な論拠を示したうえで論じなさい。

[4][「国際関係・地域研究」プログラム]

民主制(democracy)の内容は時代によって変化してきた。近年、民主主義国では既成政党が信頼を失い、ポピュリズムが台頭している。「民主制の現在と危機」について論じなさい。

▲900

課程	修士課程	研究科	国際文化交流研究科	専攻	国際文化交流専攻	受験番号	
試験科目	2026年度 一般入試(B日程)		論述		解答用紙	用紙枚数	1/2枚
						評点	

【共通問題】

▲150

▲300

▲450

▲600

▲750

▲900

小論文 出題の意図

入試年度：令和 8（2026）年度入学者選抜

選抜区分：大学院国際文化交流研究科修士課程 B 日程

実施日：令和 8（2026）年 2 月 24 日

※「出題の意図」についての質問、照会には一切回答しません。

論述の共通問題に関しては、言語に留まらない困難さを伴う異文化の理解と受容について、「文化を翻訳する」という視点から、その困難性を各自の専門的立場に基づいて論理的に説明するか、文章の整合性、説得力、独創性の要素も踏まえて総合的に評価することを意図している。選択問題も同様に、アート・マネジメント分野では「富士山の世界遺産登録のメリット・デメリット」、国際協力分野では「現地の文化・価値観と日本の文化・価値観との対立」、日本学・比較文化分野では「日本＝単一民族国家をめぐる議論」、国際関係・地域研究分野では「民主制の現在と危機」について、それぞれ各専門分野の視座から論述を行うことで文章の論理性と整合性、説得力及び視点の独創性を総合的に評価する。

英語の論述に関しては、長文の内容を十分に理解した上で、それに対する自らの意見を英語で適切に記述することができるか評価することを意図している。